TOKYO BAPTIST CHURCH 東京バプテスト教会
Weekend Message
週末メッセージが聞けます http://tokyobaptist.org/sermons/

イエス・キリストの即位　私はこの人の血について無実ですか?

マタイによる福音書 27:15-28

2024年7月13日 & 14日
余沢 武 牧師

I. はじめに

こんにちは。引き続きマタイによる福音書を見ていきます。そしてイエスが十字架にかけられた出来事を見ていきます。私たちは、イエスが大祭司に、自分はメシア、神の神聖な御子であり、御父とともに統治すると語っているのを読んできました。そして、彼は冒涜の罪で起訴され、死刑を宣告されました。

彼らはイエスをローマ総督ピラトのもとに連れて行き、次の 3つの告発をしました。（ルカ 23:2）
国民を惑わしている。皇帝に税を納めるのを禁じている。自分が王たるメシアだと言っている。
そしてイエスはピラトに、自分は王ではあるが、彼の王国はこの世のものではなく、人間の敵とは戦わないと説明しました。その代わり、すでに話したように、神は人の心を支配するサタンと戦うのです。
それはヨハネ第一 2:15-16 にある通りです。
肉の欲望 – 感情や欲望を満たすことで幸福を求める。
目の欲望 – お金を通して。
人生の誇り – 成功や人気を通して。

今日は、ピラトがこれらすべてにどのように反応したかを見てみます。まず、祈りましょう。

II.私はこの人の血について無実ですか?

(1) ピラトの問題

マタイ 27:15-19 を見ましょう。そこにはこう書かれています。
「ところで、祭りの度に、総督は民衆の希望する囚人を一人釈放することにしていた。時に、バラバ・イエスと言う名うての囚人がいた。ピラトは、人々が集まって来たときに言った。『どちらを釈放してほしいのか。バラバ・イエスか、それともメシアと言われるイエスか。』人々がイエスを引き渡したのは、妬みのためだと分かっていたからである。ピラトが裁判の席に着いているとき、その妻が彼のもとに人をやって言わせた。『あの正しい人に関わらないでください。その方のために私は今日、夢で非常に苦しみました。』」

ユダヤの権力者たちはピラトがイエスを死刑にすることを望んでいたが、ならわしとして一人の囚人を釈放することになっていたので、ルカが伝えたように反乱の片棒を担いだ“バラバ”を釈放するか、それとも“イエス”を釈放するかと民衆に問うたのでした。

すでに、ピラトはイエスが無実であることを知っていました。
その理由
1 イエスはご自身で彼に、自分の王国はこの世のものではないと告げたこと。
2 彼らが自分を引き渡したのは妬みのためであると知っていた。
3 彼の妻は見た夢を通して、彼が「正しい人」であることを知っていた。

当時のローマ人にとって夢は神の啓示とみなされていました。
27:20-24「しかし、祭司長たちや長老たちは、バラバを釈放して、イエスを死刑に処してもらうようにと群衆を説得した。そこで、総督が、『二人のうち、どちらを釈放してほしいのか』と言うと、人々は、『バラバを』と言った。ピラトが、『では、メシアと言われているイエスのほうは、どうしたらよいか』と言うと、皆は、『十字架につけろ』と言った。ピラトは、『一体、どんな悪事を働いたというのか』と言ったが、群衆はますます激しく、『十字架につけろ』と叫び続けた。ピラトは手の付けようがなくなり、かえって騒動になりそうなのを見て、水を取り、群衆の前で手を洗って言った。『この人の血について、私には責任がない。お前たちの問題だ。』」

祭司長たちと長老たちは群衆にバラバの釈放を求めるよう「説得」した。彼らは「十字架につけろ！」と叫び続けた。「ピラトは暴動が始まったのを見ました」

彼は水で手を洗い、「この人の血について、私には責任がない。お前たちの問題だ。」
つまり「それはあなたの責任で、私は無実です。」という意味です。これを「自己保存」といいます。その時点まで、ピラトには次のような願望があったように思えます。
「正義と公正の追求」
「イエスに対して愛を示す」

しかし、「暴動が始まっている」のを見て、彼は変わりました。皇帝から責任を追及されることによって、自分の地位や全てを失う恐怖。彼の心が経歴や成功、生活のプライドを守ることに支配されていたのがわかります。
彼は恐怖に陥り、成功とお金のために正義の追求と愛を放棄したのです。そして自分の手を洗い「私は無実です」と言いました。 それは自己保存です。これがこの世の中です。

私がまだ日本で大学生のとき、私はクリスチャンではありませんでした。私は友達と飲みに行ったりして日本でみんながやっていることをいつもやっていました。徐々に、私たちが本当は何をしているのかに気が付いてきました。私たちは常に誰かについてのうわさ話をしたり、批判したり、不平を言ったりしていました。
批判のターゲットはある人からある人へと変わります。ある日、その標的となる人がどう決まるか気が付きました。それは、その日一緒に飲んでいなかった人です。私が彼らに加わっていないときはいつも、彼らが誰のことを話していると思いますか？ そうです。私です！

私はクリスチャンになって約 30 年になります。もうそういう飲み会には行きません。
しかし、同じ誘惑がまだ存在していることに気づきました。「誰かと誰かがこう言ったよ。そしてこうしたよ。そんなことができるなんて信じられないね。」

私たちは、その人のために愛情を込めて祈る代わりに、口調を合わせてこう言いたくなることがあります。「そうそう！ 彼が私に何をしたのか当ててごらん」そして、さらに否定的なことを言って、ピラトのように、他者に受け入れてもらおうという欲求ープライドに心が支配されてしまうことが合うのです
私たちの「正義と愛の追求」は投げ捨てられてしまいます。

(2) ユダヤ人の指導者と群衆の問題

27:25-26「民はこぞって答えた。『その血は、我々と我々の子らの上にかかってもいい。』そこで、ピラトはバラバを釈放し、イエスを鞭打ってから、十字架につけるために引き渡した。」

さて、ピラトとは対照的に、ユダヤ人の群衆は言った、「その血は、我々と我々の子らの上にかかってもいい。」 言い換えれば、彼らは喜んで責任を負うと言っているのです。
なぜ、この民衆はこのように短時間で態度が変わってしまったのか、お考えになったことがありますか？
最初はイエスを支持していた彼らが、ユダヤ教指導者に、すぐに説得させられていくのです。
ヨハネは実際に私たちにその説明をしてくれます。

ヨハネ 19:6-7 で彼はこう言います。
「祭司長たちや下役たちは、イエスを見ると、『十字架につけろ、十字架につけろ』と叫んだ。ピラトは言った。『あなたがたが引き取って、十字架につけるがよい。私はこの男に罪を見いだせない。』ユダヤ人たちは答えた。『私たちには律法があります。律法によれば、この男は死罪に当たります。神の子と自称したからです。』」

彼らを怒らせた唯一のことは、「彼は自分を神の子とした」ということでした。彼らは彼が神の子である、自分は神と同等だと主張したために怒ったのです。彼らはイエスが冒涜したと思ったのです。

では、お聞きします。
もし神が「わたしは神だ」と言ったとしたら。それは冒涜ですか？いいえ。
神の天使が「私は神の天使です」と言ったとしたら、それは冒涜ですか？いいえ。
彼らが「神に等しい」と言ったら、それは冒涜ですか？その場合は、はい。現に、それがサタンのやりたかったことです。
神のメシヤが「私は神のメシヤです」と言ったとしたら。それは冒涜ですか？いいえ。

彼が「神に等しい」と言ったら、それは冒涜ですか？ ただし、メシアが神と同等であることを意図していない場合に限ります。

神殿でパリサイ人たちに対するイエスの最後の質問を覚えていますか？ マタイ 22:41-45 ではこう述べています。
「ファリサイ派の人々が集まっていたとき、イエスはお尋ねになった。『あなたがたはメシアのことをどう思うか。誰の子だろうか。』彼らが、『ダビデの子です』と言うと、イエスは言われた。『では、どうしてダビデが、霊を受けて、メシアを主と呼んでいるのか。『主は、私の主に言われた。／『私の右に座れ／私があなたの敵を／あなたの足台とするときまで。』このように、ダビデがメシアを主と呼んでいるのであれば、どうしてメシアがダビデの子なのか。」

王であるメシアは神と等しく、御父と共に統治する神聖な神の子です。だから、メシアを名乗る者が、メシアは神と等しい神の子であると主張することは、神を冒涜することではないのです。これは罪ではないことは確かです。
しかし、彼が国民を惑わし、皇帝に税金を納めることに反対したと言うのは、「偽りの証言」であり、十戒に反し、神に対する重大な罪です。そして、彼らは殺人の目的でこのようなことをしているのです。これは十戒に対するもう一つの違反です。

群衆が、自分たちは神をあがめていると考えていた一方で、明らかに神に反した行いがありました。指導者から聞いた誤った非難を受け入れた時に、彼らの中に怒りが沸き上がり「肉の欲求」に負け、最終的にイエスに対する怒りがかき立てられてしまったのです

繰り返しになりますが、クリスチャンであっても、注意しないと、私たちもまったく同じことをしてしまう可能性があります。
上司、同僚、友人に関するひどい話を聞くかもしれません。他のクリスチャン、有名人、政治家に関するひどい話を読むかもしれません。

確認しようともしなかった群衆と同じように、私たちが読んだり聞いたりしたことをただ受け入れるだけで、私たちが怒りをかきたてられるとしましょう。 そして私たちの思考、言葉、行動を感情－肉の欲求―でコントロールさせてしまうと、それがやがて他の人の評判を悪くしてしまう結果になることもあるのです。
ところで、イエスが同じ話を聞いたらどう反応するか考えたことはありますか。
私たちは自分の知っている人々、他のキリスト教徒、有名人、政治家、その他誰についてもいろいろ聞きます。神もそれを受け入れて、私たちと同じように怒りをもって反応すると思いますか？

彼はとても心配するかもしれません。しかし、神は義であり続けます。彼は愛情を持ち続けます。彼は注意深くその言葉が検証されるまで、その言葉を信用しないでしょう。そして、もしそれが検証されれば、彼は正義と愛をもって反応するでしょう。しかし、群衆、あるいは私たちのように、感情に任せて反応しません。

ピラトは、悪いのはユダヤ人たちだと考えました。ユダヤ人の指導者とユダヤ人群衆はイエスが悪者だと考えました。そして私たちも、罪を犯しているのは他人、つまり友人、上司、政治家、その他誰でも自分以外の人だと考えるのです。

イエスは沈黙したままです。私たちの罪の罰を受けるために十字架で死ぬ準備ができています。そしてその後、彼はこう祈りました。「父よ、彼らをお赦しください。自分が何をしているのか分からないのです。」

彼の死によって、私たちは今赦されることができるのです… 私たちが罪人であること、イエスが十字架で私たちの罪の贖いをしてくださったことを受け入れること。主が死者の中からよみがえられたことを信じ、私たちの主として彼に従うことを決意すること。

そうすれば彼は私たちに聖霊を与えてくださいます。そして神の助けによって、私たちはまったく新しい正義と愛の人生を追求し始めることができます。

正義、そして、愛。いつか、私たちはすべてを受け取り、イエスと共に統治するのです。
もしあなたがイエスを自分の主であり救い主として受け入れていないなら、今日そうすることをお勧めします。

指定のない限り聖書は協会共同訳を使用しています。
聖書 協会共同訳: ©日本聖書協会
Japan Bible Society, Tokyo 201

キリストのことをもっと知りたい
洗礼を受けたいという方はこちら
メール：cc@tokyobaptist.org
もしくは：https://t-b-c.us/cc

TBC Life 申込み
（毎週届くメールニュース）
http://t-b-c.us/tbclife

SG レッスンの PDF
https://t-b-c.us/sg2924jp

★クラス 101
教会員になるためのクラス
9月8日（日）1:00pm - 5:00pm
参加条件: どなたでも

☆クラス 201
霊的成長について
9月22日（日）1:00pm - 5:00pm
場所: ランゲホール（B1）
参加条件: クラス 101 を修了し、メンバーの方
https://t-b-c.us/classes

オンライン献金
http://t-b-c.us/give

スモールグループ参加申込み
http://t-b-c.us/sgsu

奉仕者募集中！

1. 日本語字幕オペレーター

月 1～各礼拝の時間の日本語字幕のページを矢印キーで押していく作業。コンピュータースキルはいりません。
スキル：英語を聞いて日本語がどこを話しているかわかる程度の英語力

2. 日本語訳字幕作成

月 1～土曜日 16 時に TBC にて作業します。
Mac でプロプレゼンターというソフトで作成しますが、1，2 回のトレーニングで簡単に覚えられます。作成後、土曜日 19 時の礼拝の日本語訳字幕オペレーターもお願いしています。
スキル：英語を聞いて日本語がどこを話しているかわかる程度の英語力

3. 週末礼拝メッセージ翻訳

1 か月半に 1 度くらいのペース
自宅での作業になります。
英語のメッセージ原稿を日本語に翻訳します。
スキル：英語と日本語が堪能な方

4. 日本語訳レイアウト&印刷（女性募集）

月 1～土曜日 16 時に TBC にて作業します。
MS Word を使用してひな形に入れてレイアウトし印刷します。
スキル：MS Word の簡単な操作ができる方。英語のスキルは必要ありません。

*TBC の教会員であることが必須です。

連絡先：hiromik@tokyobaptist.org